

水稻倒伏軽減剤パクロブトラゾール粒剤の使用法

(農試 県南分場)

1 背景とねらい

近年、全国的に良食味品種の作付が拡大している。本県においても、ササニシキのように長稈で倒伏しやすい品種の作付が増加し、安定多収栽培には倒伏防止技術が重要となっている。

このような中で最近、倒伏を軽減する生育調節剤が開発されているが、従来ある剤より比較的遅い時期（倒伏の予測可能な減数分裂期頃）に使用するパクロブトラゾール粒剤が農薬登録され、本県で実用性が認められたのでその使用法について指導上の参考に供する。

2 技術内容

(1) 薬剤名

商品名 : スマレクト粒剤 試験名 : PP-333粒剤

有効成分 : パクロブトラゾール 0.6%

化学名 : (2RS,3RS)-1-(4-クロロフェニル)-4,4-ジメチル-2-(1H-1,2,4-トリアゾール-1-イル)ペンタン-3-オール

毒性 : 普通物

魚毒性 : A類

(2) 作用特性

パクロブトラゾールはジベレリンの生合成に関与する酵素の活性を阻害し、細胞の伸長成長を抑制する。本剤は速効性で出穂15～10日前に湛水土壤処理することで、水稻の稈長（とくに上位節間）の伸長を抑制し、倒伏を軽減する効果がある。

(3) 使用方法

使用時期は減数分裂期である出穂15～10日前で、薬量10a当り2kg～3kgを厳守し、水深3～5cm程度の湛水土壤のもとで、散布ムラが生じないように散粒機等で均一に散布する。本剤は土壤に吸着後根部から吸収されるので、少なくとも5日間は落水、かけ流しは行わない。

3 指導上の留意事項

(1) 従来の基本的な倒伏防止技術（施肥管理、中ぼし等の水管理）を行っても倒伏が予想される圃場を使用する。本剤は完全に倒伏を防止するものではない。

(2) 出穂20日前以前に散布をすると初数が減少し減収することがあるので、処理時期を守る。

(3) 重複散布や3kg/10aを超える多量散布は草丈の不揃い、短稈になり過ぎ、穂の抽出不良となるので、薬量を厳守し均一散布に努める。

- (4) 本試験はササニシキを対照として行ったのが「あきたこまち」でも本剤の効果はあ
ると考えられる。
- (5) 火山灰土壌(黒ボク土)では効果はやや劣るが3 kg/10aの散布で実用上支障はな
い。
- (6) 後作物に野菜類の作付することは避ける。また、処理後の土壌を育苗用に使用しな
い。

4 参考文献・資料 省略

5 試験成績の概要

表1 パクロブトラゾール粒剤の倒伏軽減効果(供試品種、ササニシキ)

試験 年次	試験場所 土壌条件	処理時期、処理量 出穂前日数、 kg/10a	N施肥量 kg/10a	稈長 cm	穂長 cm	倒伏 程度	精玄米重 kg/10a	穂数 本/m ²	1穂 粒数	登熟 歩合 %	千粒 重 g
S61	県南分場 江刺愛宕 褐色低地土	無処理	4+2(-64)	80.2	17.2	1.4	656	533	69.8	85.0	20.6
		-16、2	+2(-16)	72.3	16.5	0.2	663	519	71.0	88.0	20.7
		-16、3		67.6	16.2	0	661	531	69.5	87.5	20.6
S63		無処理	4+2(-11)	86.9	18.7	2.9	492	608	69.4	59.1	19.4
		-11、3		79.5	18.1	2.6	543	615	73.6	60.9	19.5
H元		無処理	4+2(-8)	80.9	17.0	2.8	542	642	63.1	64.3	21.0
		-8、3		72.6	16.0	1.4	591	592	62.1	75.3	21.3
		江刺広瀬 灰色低地土	無処理 -10、3	8.4(全体量)	83.5 74.6	18.3 17.9	1.4 0.4	602 621	平成元年度農業展示 圃試験成績より		
金ヶ崎農短 黒ボク土	無処理 -14、3	4.8+2.0	88.0 85.0	18.1 16.7	2.5 1.1	378 468					